

## 議事録

項 目	第2回 水前寺江津湖公園利活用・保全推進協議会 アクティビティ・マネジメント部会
協議日時	平成30年9月25日（火） 14:00～16:00
協議場所	熊本市動植物園 緑の相談所 2階会議室
協議者 (敬称略)	国立大学法人 熊本大学大学院 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授 星野 裕司（部会長） 公益財団法人 熊本市美術文化振興財団 理事 葉山 耕司（欠席） 公益財団法人 地方経済総合研究所 主任研究員 藤田 英介 キリン株式会社 CSV 戦略部 絆づくり推進室 （熊本復興支援担当） 古賀 朗 株式会社スノーピーク地方創生コンサルティング シニアマネージャー 若松 隆一 協業組合江津湖観光 マネージャー 江藤 啓貴 江津湖貸舟協同組合 監事 宮本 龍一 一般社団法人 熊本市造園建設業協会 理事 松本 秀和 一般財団法人 熊本市社会教育振興事業団 熊本市総合体育館・青年会館 館長 田口 八司郎 水前寺活性化プロジェクトチーム 事務局 楠本 英雄 幹事 庁内関係課、事務局
<p>&lt;議題&gt;</p> <p>(1) 前回会議の振り返り・今回の検討事項</p> <p>(2) 水前寺江津湖公園の課題について</p> <p>(3) 計画の基本的考え方について</p> <p>(4) 今後のスケジュールについて</p> <p>【議事録】</p> <p>●皆さんこんにちは。今回は会議の場所も変わり皆さん前回以上に色々なご意見を自由にご発言いただければと思います。一応会議は2時間を予定しておりますが、もし時間に余裕があるようであれば、少し外に出て皆で歩いて見たりとか、そのようなこともできたらいいかなと思います。議題は次第の通りですので、まずは前回会議の振り返り、検討事項ということの説明をお願いします。（星野部会長）</p> <p>～議題（1）「前回会議の振り返り・今回の検討事項」説明後～</p> <p>●資料1で前回の意見、ポイントの整理と、資料2の方で課題への対応、あんなことしよう、こんなことをしようみたいなことを議論しようという予定だったんですけども、もう少しじっくりと現状の課題であるとか、共有して、考え方の再確認をしたいなということですね。ここまでで何かご意見等はございますか。</p> <p>いいですかね。また出てくるかと思っておりますので、次からの（2）課題の共有ということになり</p>	

ますので、そこで併せてご意見いただきたいなと思います。(星野部会長)

～議題(2)「水前寺江津湖公園の課題について」説明後～

- はい、少し情報が多かったですけども、課題の共有というところで、中学生の意見、協議会委員の意見、環境部会の意見、マーケットサウンディングについてはこんなことしますよという報告でしたが、どれに対してでもいいし、さらにという形でもいいですし、共感することであったりとか、そうだとするともっとこういうことが大事だよねとか、なんでもいいですけども、何かご意見をお願いします。(星野部会長)
- 私達が日々作業の中で従事していくときに、よくお客様、利用者の方から聞かれるのは江津湖にどうい生物がいるのか、水を直接触れてみたいとか、どのくらい冷たいのかとか、実体験とかそういったのを見れるようにとか、触れられるようにしてほしいとか、すごく多いんですね。だからこういう中学生が言う水族館を造ってほしいとか、その海のような水族館じゃなくても、淡水の、江津湖の水を利用した、特に広木には地震によってですけども、陸地のど真ん中に湧き水が出てきたりとか、色んな水の再利用ができるので、例えばの話ですけども、そこをポンプ上げて、透明なアクリル板で江津湖まで透明でつくってしまって、上江津、中江津、下江津にはこういった魚、こういった水生生物がいるんだよというのを子ども目線で見せることも可能だと、例えばの意見ですけどもね。そういったこともできますよという意味です。(松本委員)
- 確かに、中学生、協議会、あるいは環境部会も含めてですけど、もっとちゃんと知りたいみたいな意見はなんか共通して出ている感じはしますよね。例えば環境部会のビジターセンターというのも、研究センター等も、そんなのを楽しく準備するなんていうのもいいですよ。江津湖を現地でよく知りたいみたいな、それは大事なんじゃないかなということですよ。(星野部会長)
- 総合体育館の方では、やはり健康、スポーツそういう方向で色々とイベントをやっているんですけども、今熊本市民スポーツフェスタというのを年に4回やっております。春夏秋冬、色々なスポーツを、その中の一つでも二つでも秋、春でもいいんですけど、江津湖のこの公園を使ったスポーツイベントができないかなというところを1つ考えております。例えばですけど、春の時に健康ウォーキングで自然を観察しながら上江津から下江津まで歩くとか、また冬に関しては、今熊本城マラソンとか盛り上がってますよね、そのマラソンというものを5kmコースとか、10kmとかそういったものを力試しの大会をイベントして、熊本城マラソンに出てもらおうといった、健康に関するようなスポーツイベントをできないかなという思いがあります。(田口委員)
- 今言われたスポーツフェスタみたいなのでは、江津湖は会場になっていないんですか？(星野部会長)

- 今は体育施設ですね、屋内競技であれば体育館、あとゲートボールとかそういった、江津湖はないですね。(田口委員)
- 今お話聞いているほどなと思ったのが、健康というキーワードは確かにそうだなということと、あと熊本市で色々やっていることにもっと江津湖が積極的に参加し、色んなイベントとか江津湖が会場として色々いいことがあるでしょうから、既にあるイベントに参加していくとか、関連付けていくということも大事かもしれないかなと思います。そういう連携とかですね。他どうですか？この前言いきれなかったこととかでもいいですし、今はまず現況と課題の共有というところですので。(星野部会長)
- 今運動というお話があったので、その流れになりますけれど、江津湖で走られている方たくさんいらっしゃるというところでは、非常に江津湖というコースが、素晴らしいランニングコース、ウォーキングコースだというふうに認知されているんだなという結果だと思いますので、例えばできるできないかは別にして、熊本城マラソンのコースを江津湖にもってくるとか、そもそも熊本の歴史を感じてもらおうというのが大会の目的だったと思うので、熊本新港の方に走るのではなくて、もっと文化財が集中しているようなところも周ってもらおうことがマラソンコースの本来の目的にあっているのかなというところは思ったりもするところです。あと江津湖の特徴というのは、陸上もできますけど、水上のスポーツができる。例えばボートだったり、カヌーというのができるんですけど、それぞれのスポーツがバラバラな動きをしているんですね。カヌーするところ、ランニングするところとあるので、例えば今トライアスロンという競技があるじゃないですか、自転車できる、走れる、泳ぐ、それって、泳ぐはちょっとどうか分からないんですけど、そういうの組み合わせで競技大会を小さいのをまずして、積み重ねて地道にやっていくという、そうするともうちょっとスポーツと江津湖の資源を使ったものでプロモーションをしたりできるのかなと思います。ノルディックウォーキングみたいに、クロスカントリーなんか色々あるじゃないですか、例えばカヌーで何 km、ランニングで何 km で、順位をつけましょうというのを、それを江津湖の一大イベントみたいなのにしていくと夏暑いので利用者が少ないという、その解決策にもなるのかなと思っています。あとみなも祭りに一昨日行ったんですが、広木公園から斉藤橋まで船に乗って行けるという、初めて乗ったんですけど、すごくスピードもあって気持ちよくて、なかなか見れない景色も見れたんですけど、ああいうのを例えば日曜、その時に色々とお話聞いたら、みなも祭りのときしかしていませんとおっしゃったんですよ。そういったのをやると、業者さんのご都合もあると思うんですけども、定期的にしていてもいいのかなというところを感じたところです。あともう一つ、江津湖で三日くらい歩きまわったんですけど、トイレが何箇所かあるんですね、さっき話題にも出たんですけど、和式トイレが非常に多くて利用するのをちょっとためらうようなところが多いので、トイレを綺麗にするというのは単純にいいと思うんですけど、例えばトイレもネーミングライツのように、一つの企業にこの管理をまかせる、その代わりに自由に宣伝していいのでという、企業に管理をまかせるといった形であれば江津湖の方がトイレを気軽にできるし、企業さんの取り組みによってトイレが綺麗な公園というふうに PR する材料にも

なるのかなと思ったりもしました。以上です。(藤田委員)

- たぶん後半の話の方からすると、施設更新の工夫なんていうのも、おそらく今日の議題のエリアマネジメントとか、そこら辺と関連してくると思います。そこら辺でももう一度、議論できればいいと思うんですけども、あと確かにお話聞いている、その江津湖の魅力って何かというと、色々やれるみたいなことだとすると、その組み合わせの、その複合とか、それぞれだったら他の場所でもできるかもしれないけれど、組み合わせはここでしかできないみたいな、そういうアクティビティを組み合わせることで、ある種の相乗的な価値を出していくというのはなかなか面白いのかなと思います。例えば現状、アクティビティのリストとかあるのかな、やれることリストみたいなもの、そういうのをここで作ってもいいかもしれないですね。ここではあれでできる、これできるとか、その相乗効果ということがそこで生まれるとかですね。(星野部会長)
- やっぱりお金を考えてしまうんですね、ランニングであったら、シューズ代であるとか、カヌーとかだったらいくらかかるかわからないじゃないですか。調べたら1万5千円くらいからネットでみたらあったんですね、そういう情報を江津湖で手にする必要はないですけど、何かの機会が発信していったら、気軽に始められるスポーツですよというのが発信できると上手くいくんじゃないかなと思います。(藤田委員)
- 資料4-1の⑬のところ、水深は昔深かったとあるんですけど、確かに私ずっと見てて水深浅くなっているんですね。例年より今年は30cmから50cmくらい少なくなっているんですよ。藻の除去作業もするんですけども、実際に入るとるんですけども、腰くらいまで埋まってしまうんですね。というのが、ヘドロがだいぶ堆積しているんですよ。(江藤委員)
- 下があがってるんですね。(星野部会長)
- そうです。入った瞬間にズボッと入ってしまう状況で、昔はそういうのも少なかったんですが、今はだいぶ増えてきたので、将来的にどうなるのかという心配はありますし、あとは先ほどみなも祭りで船に乗っていかれたとおっしゃったんですけど、中江津のところに大きな石があるんですね。そういうのがあって、例えば遊覧船をするにあたって、それによる多少の支障が出てきますし、あと船が行けなくなるというのも考えられます。5個くらい石があったと思いますので。(江藤委員)
- 下江津と上江津は今船で行こうとすると結構大変なんですかね？(星野部会長)
- 水深が浅かったら大変ですね。冬場が下がるんですよ。だいたい行けるのが、6月の梅雨が明けてから10月の初めくらいまでが行ける時期ですね。夏はずっと行けます、上江津から下江津までは行けます。あとは子どもなんかは遠足などで使われることが多いです。江津湖周辺の小学校とか、その時に歩道が無いということで、私達の敷地内を通らして下さいということ

もありますし、そういうところもちょっと考えてもらえればなとは思いますが。(江藤委員)

- ちなみにこの中学生会議というのは、どういう内容ですか？(星野部会長)
- 昨年度は各中学校の生徒会の生徒達を中心になって、学校側から声をかけていただいたんです。(東部まちづくりセンター)
- 今年もやっているんですか？(星野部会長)
- 今年は学校からそれぞれ集め方は違うんですけども、大きく公募した学校もありますし、ピンポイントでやっぱり生徒を選ばれた学校もあります。(東部まちづくりセンター)
- 一回くらい私達も行って、江津湖の日みたいなものをつくってくれるといいかななんて思ったんですけどもどうですか？(星野部会長)
- 今年度は一回目の会議が終わっておりまして、昨年度分を受けて、今年は何かを形にしようということで、自分達ができることというアイデア出しをしました。その中でも、健軍商店街と江津湖がすごく出てきていて、今からの作業としては子ども達が出した意見を実現に向けてお手伝いをして下さるところにちょっとお願いに前段で行くということにまで今きているんです。そしてご協力いただけるということになれば、また子ども達がこれを何か形にしていこうというところまで今作業が進んでいる状況ですので、何らかの形でお手伝いをお願いできれば、すごく形にもなりますし、進んでいくかなと思います。(東部まちづくりセンター)
- ちなみに今江津湖でどんなことをしようとしているんですか？(星野部会長)
- 今年もまた色々意見が出ているんですけども、やっぱりボートレースが子ども達は好きみたいで、ボートレースをしたいとか、ドライブシアターとか、あとは生き物の観察会という意見も出ましたし、自分達でボートを作りたいとか、外来種の駆除を兼ねたブラックバス釣り大会、スポーツ用品のフリーマーケットをしたいとか、子ども達なりにやっぱり江津湖を活用したことを色々考えているところです。(東部まちづくりセンター)
- 何らかできればいいなという感じで、ぜひ情報を共有してもらって、お手伝いできたらいいですね。(星野部会長)
- 地震前に一回画図校区の上江津の方なんですけれども、砂取庭園とか、句碑とかあるところ芭蕉苑あたりを周ったんですけども、詳しい方がいないと周れないんですよ。ですので、できればそういう地図とかそういうものがあれば一般の方でも見て周ることもできるのかなと思うんですけども。あと江津湖の水深が浅くなっている部分について、今日ちょっと真面目に見ながらきたんですけども、浚渫とかできないんですかね？環境とかの問題とかもあるんでしょう

けども。(楠本委員)

- 浚渫に関しては環境部会の方でも議論されてますよね？していいのか悪いのかという、環境的にも色んな議論もありますからね。(星野部会長)
- 浚渫につきましては今各部会でもご意見いただいているところでございます。ただこの湖面自体が、河川管理者の持ち物というところもございまして、どうしていくかということは事務局で考えていかなければいけないと考えておりますが、中の浚渫している部分にも希少な動植物等がいるという部分については、併せて考えないといけないかなというところと、あとはたびたび浚渫は江津湖ですとやってはきてあるんですが、相当の費用等もかかるというところで、するならするでの、きちんとした計画を、そういったのが必要なのかなと思っております。(事務局)
- 詳しい方に聞いたことなんですけれども、今アシが結構増えてますよね、江津湖自体。アシが増えると湖から沼に変わる前兆ということをごの方が言われてたんですよ。ですので江津湖ももう湖ではなく、沼の方に近づいていると、湧水というイメージから離れていくのかなと、そこら辺の除去とか、地元も含めて、各学校の校区にもお願いできればなと思いますけども。(楠本委員)
- まずヘドロというか、浚渫に関しても、アクティビティ・マネジメント部会でいうと、その水深の確保であるとか、そういうのはすごく大事なので、やれるものならやってほしいというのが一番の希望、それはなぜかという、江津湖でやっぱり水面というのが使えなくなったらもう江津湖じゃないというのはあると思うんですね。中学生の意見もそうですけれども。そこら辺は強くひとつアピールしていく、あるいは意識していくことも大事かなと思います。あと砂取のあたりなんかはごちゃごちゃしていますもんね。(星野部会長)
- 地図でもあると県外の方でも見に来られやすくなると思うんですけどもね。(楠本委員)
- 分かりやすさというのはここら辺に関しては特に大事なのかなと思いますね。(星野部会長)
- あのあたりに細川藩の別荘とか、それが明治時代になってそれを料亭かなんかに替えられたのかな、その跡地とかその庭とかがまだ若干残っているんですけど、その復元みたいなものもできたら歴史的には価値があるのかなと、歴史が分かるようにですね。(松本委員)
- 確かにそこら辺は過去の話とかを聞いても元料亭があったりとか、川尻の方から舟で来てとかという、ほんとにまちと絡み合っているところでもんね、ごちゃごちゃしているというのは、もう少しまちづくりと連携して何か議論しないといけないかなと、出水地区なんかは特に思います。(星野部会長)

- 芭蕉苑のところにホテルがある場所はあまり整備をしすぎたら、ということもあります。(松本委員)
- 確かにそうですね。(星野部会長)
- 今年度なんですけれども、先ほど出たちびっこプール、夏休みだけで1万5千人利用者がおりまして、夏休みの40日の期間で。今二つの浅いプールがあるんですけども、そこをもう1基増やすとか、便所もかなり老朽化していますので、遊ぶスペースというのをその辺で考えたらいかがかなと思っております。(東部土木センター河川公園整備課)
- そんなに来るんですね、私行ったことないんですよ、意外と皆知っているんですかね？(星野部会長)
- そうですね、時期になれば、今年はやるんですかとか、昨年度は1万7千人くらいだったと記憶しております。(東部土木センター河川公園整備課)
- やっぱり皆自転車とかで来るんですか？(星野部会長)
- 市電とかバスを利用されて来られる方が多いので、その辺の有効活用とか、駐車場がございませんという案内をしておりますので。大人の膝下くらい、かなり浅い、プールとっていいのか、という状況ですね。(東部土木センター河川公園整備課)
- バスや電車でここに来れるのはすごくいいですよ。(星野部会長)
- その点に関してですけど、よくボート屋ですので、駐車場に来られるんですよ。この場所はどこですかとか、ちびっこプール今1万何千人来られる内の何人かは駐車場がないということで、来られるので停めるところを案内しますが、どこに停めて行っているかは分からないですね。(宮本委員)
- 体育館の駐車場に停められて、体育館のプールを使わなくて、ちびっこプールに行かれる方もいらっしゃいますので、困っております。(田口委員)
- ここって、夏場以外の季節というのは利活用は何かされているんですか？(藤田委員)
- 夏場以外は開放しておりません。閉じてます。水も抜いております。案外ここは小さいお子さんが多いんですよ。夏場でも湧水を使ってますので、水温はかなり低いと思いますね。(東部土木センター河川公園整備課)
- 先のお話を前倒しするような意見になるんですけども、適正な管理ということを考えていくと、

ものがちょっと多すぎるかなという印象があるんですよ。エリア全体にバラバラとつくられて、そういった意味ではもう少し減築とか集約とか、何かそういうことも考えていけないといけないと思いつつ、すごく賑わっているところは残していけないといけないし、というようなところが難しいというか、議論するポイントなのかなという気はしますね。残したり、充実していけないといけないですよ。ちびっこプールとかまさに結構論点にはなるのかなと思います。  
(星野部会長)

- ゾウさんのプールをもう少し綺麗に整備すればそちらに行かれると思うんですけどもね。(田口委員)
- ゾウさんプールは今はもう遊ばないらしいですよ。(星野部会長)
- あそこで江津湖放流があってるんですよ、あれから釣り人が多くなったり、だいが針とかあると思うんです。(松本委員)
- ゾウさんプールのところにですか？(星野部会長)
- ゾウさんプールには放流していないんですけども、増水してもとのところから、ゾウさんプールの方に魚が来るんですよ、道路を渡って増水して、それですね。(松本委員)
- それを狙いにくる人がいるんですか？(星野部会長)
- ブラックバスとかあがってきますので。完全な池なので、入ってしまったら逃げられないところなので、釣堀みたいな形になってしまうんですよ。多少はもとの江津湖の方に流れるんですけども。(松本委員)
- ゾウさんプールも上江津地区からはたくさん意見が出てますもんね。(星野部会長)
- 天然プールみたいでいいんですけどね。(江藤委員)
- 景色もシュールだからですね。(星野部会長)
- 駐車場ないんじゃないですか？(江藤委員)
- 無いですね。(松本委員)
- 駐車場の問題、駐車場は普段、ほんとに寂しいスペースですもんね。他どうですか？(星野部会長)

- お話を聞いていて、改修が必要ある部分であるとか、現状に対する不具合みたいなものは今後  
も行政は対策をうっていくはずなんですよね。非常に分かりやすい部分で、たぶんこの協議会  
自体が有限だと思うので、ここでたぶん決めておかないといけないと思っているのが、この協  
議会自体の協議が終わった後に、江津湖のことを誰が考えていって、どういったプレイヤーが  
やっていくのかということだと思うんですけど、それが今1つやられているサウンディング  
という部分だと思うんですけども、この協議会でその話をしたことが、いわゆる公募とい  
うところに結びついていくイメージなんですかね？こうあってほしいという未来の絵をここ  
で描いてそれが公募というふうなイメージなんですか？（若松委員）
- そうですね、こちらで並行してやらせていただいているサウンディングというのは市場性の有  
無を、今年度は民間の意見を聞きたいというためにやっています。来年度公募をやる予定で  
るので、私たちの今の考えで言いますと、こちらの皆さん、事業者と有識者の方々とのご意見  
で計画は策定していく。その中に民間さんでのアイデアとか、市場性の有無をヒアリングさせ  
ていただいた部分を反映させていく、組み込んでいく、共有をしていく、その上で、計画を策定  
するという形を今考えていて、それでまとまったものを基にして来年度公募に入っていきたい、  
そういう考えでやっております。（事務局）
- 本当はこういった協議会というのが、今後ずっと、5年、10年と続いていくというのが理想  
だと思うんですね。江津湖のことについてこれだけの人が集って、考え続けていく。プレイ  
ヤーを決めて、事業内容を決めてやっていくというのが一番いいと思うんです。それはなかなか  
難しい、ここで出た意見を行政に押し付けて「やってくださいね」というのも何か違う、例  
えばなんですけども、部会長は大学の方なので、その1個江津湖自体を活性化させるとか、K  
P I（組織目標の達成度を評価するための主要業績評価指標）をここに流入する人口にするの  
か、満足度にするのか、分からないんですけども、大学で、江津湖について考え続ける会社  
みたいなものを例えばつくってしまう、その会社として、大学生がこの部会でやっているよう  
に、課題であるとか、やるべきことを抽出して、大学生にその資金と、そのプレイヤーにな  
っていく時間はないと思うので、その大学生がつくった会社というのが、民間に営業をかけて  
いくようなそういった組織みたいなのがあって、たとえばゼミなのか、大学のどこの組織なの  
かは分からないんですけど、それであれば新しく入ってくる人で常にフレッシュに江津湖の  
ことを考えていけると思いますし、地元の大学ができればいいと思うんですけども、やはり  
この公園について考え続けていくという組織が必ず必要だと思っていて、あくまでそのプレイ  
ヤーは行政というよりは民間に営業をかけていく、市街からこれだけ近い場所でこれだけの人  
がいて、こんな思いがあるんですけど、例えばカフェをやってほしいという市民の思いがあ  
って、出店してもらうために、ここの市場性みたいなもの、マーケットとしての面白さみた  
いなものをどういうふうに伝えていくかというのはその会社が考えていく。民間に営業をかけて  
いく、そのサイクルで、平成31年度はカフェを誘致するために営業かけていきます、32年度  
は水上のアクティビティというのを誘致するために、こういった資料を用意して営業をかけて  
いきますというふうに、結局考えるということ自体が単発で終わらずに、アクティビティ・マ  
ネジメント部会なので、色々な話し合いの中で、環境保全のことは1回環境部会にまかせて、

アクティビティという話では、こういう有限な期間の中で、そこを決めていかなきゃいけないんじゃないかなと聞いていて思いました。(若松委員)

- そうですね、ほんとおっしゃるとおりで、基本的にはその現況の課題というのを共有してあって、あれしてこれしてと、それで終わっていつていると駄目で、それをどう実現していくのかというところがむしろ私達のこの部会の一番考えないといけないところだと思います。おっしゃるとおりで、ある種第三者的な組織、主体的に動く組織というのが一つの目標にはなるのかなと思うんですけども、そういうところも含めると(3)の「計画の基本的考え方について」とか、おそらく参考資料についている運営の仕方だとか、そこら辺をご説明いただいて、そこも含めて議論していきたいなと思います。ではということで次のステップにいきながらまた思いついたことがあれば戻っていただいても構わないので、いきたいなと思います。(星野部会長)

～議題(3)「計画の基本的考え方について」説明後～

- 課題や要望をどう実現していくかにあたって、資料7の考え方、方向性、考え方(1)(2)(3)という考え方で課題を解決していきたい。例えばイベントガイドラインの作成についてという参考資料は、基本的考え方(2)適切な公園経営・資産運用というものの一つの具体例というか、こんなものが公園経営としては必要なんじゃないかということですよ。(星野部会長)
- そうですね。やはり江津湖でこういったことやりたいんだけどみたいな声も聞こえています。いわゆる江津湖の使い方、例えばイベントしようとしても、どこに電話していいかわからないという方も多くいらっしゃるという部分でもあります。イベントをやって、例えばその収益をあげられた一部還元していただく、イベントの前日、終わった後とかですね、清掃活動であったり、除草してもらったりとか、そういった考えでいくと(2)になると思いますし、江津湖リビング、コムハウスさんが主体的にやられている分でございますが、やはり公園の魅力的なものを発信されて、「ほんと来てよかったな」とすごく思えるようなイベントを手がけられている、いわゆる公園の魅力的な発信にも繋がっていくイベントだと思っています。そういう方が増えると、若松委員から先ほどありましたとおり、次の公園のキャストを発掘していかないと、やはり江津湖はいいなというのが、20年後も30年後も公園に関わられる方々を残していく意味合いで、やっぱりイベントガイドラインというのは3つ切り口を設けさせていただいてますが、いずれにも関わっている大事なことかなと思ひまして、今回この協議会の中で、この作成についても併せてさせていただきたいというような主旨でございます。あとはエリアマネジメントについては、特にその担い手、今後の誰がプレイヤーになっていくのかという部分で、一つ事例として、エリアマネジメントの取組みについてのご紹介をさせていただいたと、イベントが単発、単発でということをしていくわけではないんですが、もう少しそのイベント、イベント、事業者、事業者さん同士が例えば上手く連携していく、その取組みがイベントであったり、防災であったり、各皆様方の情報の発信、そういうところで上手く連携していくことによって、より強く魅力が発信できるのではないかと、そういったことは今後行政

主体というよりも民主体の方に、必要もございますので、そのようなエリマネの取組みも今後併せて考えをさせていただきたいというような主旨で今入れさせていただいております。先ほどの説明に少し補足をさせていただきますが、次回協議会を10月10日に親会を開かせていただく中で、今前段で皆さんにご議論いただいた課題の洗い出し、共有といったところの課題の部分と、もう一つ今説明しました資料7の基本的な考え方、この二つをアクティビティ・マネジメント部会もしっかりですが、環境部会の方でも同じような形で協議会にお廻りをする、また協議会の中で、皆さんとともに課題とその目指すべき方向性なりを協議会の中でも議論を今回はしたいと考えておりますので、ここの部分特に切り口は三つかもしれませんが、今後その紐付いてくる施策事業等については、どれかに当てはめていくようなことになるかもしれませんが、この辺は今日ご議論をいただければと思っております。(事務局)

- 今日の結論としては、資料7の部分と、次の協議会に報告するためにということになりますので、ここを今日しっかり議論したいなと思います。特にやっぱここの辺に関してはどちらかということこの会議も私側というか、委員の民間の方々とか、そこら辺からご意見いただけるといいなと私個人的には思っているところなんですよね。どうですかこれで大丈夫ですかね。(星野部会長)
- 色々整理しっかりとさせていただいていると思いますけれども、ここで大きな特徴をあげると、誰が何をする、誰がするのかというのが、明確でないです。どのように何をどういう目的でしていくのか、そこを部会として、誰がするのかというのを明確にした方が親会も判断しやすいかなというふうに感じています。担い手づくり誰がするのか、魅力と質の向上誰がするのか、適切な公園経営・資産運用誰がするのか、どれも主語がないんですよ。(藤田委員)
- 今回の利活用・保全計画、環境の方ももちろんなんですけれども、いわゆる熊本市の行政だけがする事業のための寄せ集めの計画をつくるということではなくて、行政が担う事業であり、民がいわゆる地域の方々が担う事業、民間企業の方が担う事業、そういったものが今のイメージとしては、例えば基本的な魅力と質の向上では、行政がやっていく事業としては例えばこれに紐付いてくるし、民間さんの担う事業、やっていただくことというのもこの中に入ってくるというような今イメージしております。行政がやっていくだけの今この議論をしているわけではなくて、皆さん方にまたご協力して、一緒に、連携してやっていくようなイメージの計画を作ろうと思っております。今これは誰がするのかという形を考えれば、皆さん、行政もしっかり、民もしっかり、地域もしっかりというふうに今考えております。(事務局)
- 確かに今誰かと決められないかもしれないけれど、議論のポイントというか、保全計画のすごく大事な、どういう体制でやっていくのか、どういうプレイヤーでやっていくのかというのは、大事なポイントになるということかもしれませんね。まずはすべきことみたいなリスト、整理されたものがあって、具体的な施策みたいなものも付いてくるでしょうけど、最終的には誰が、つまりどういう体制で、というところがすごく提案のポイントになるということですよ。(星野部会長)

- この基本的考え方の（１）（２）（３）を具体的に紐といていくということなんでしょか？これ一つ一つ少し漠然としているのかなという気がします。（松本委員）
- 今前段でご議論いただいた、色んな課題がある、それを解決していくための切り口、キーワード的なイメージというふうにとらえていただければと思っています。今後、資料２で載せていきますとおり、第３回の部会以降で、この切り口が後からフィードバックしながら変わっていくことはあって当然しかりでいいかと思えます。それをまずベースとして、それに引っ付くような事業であったり、その事業の運営とか、担い手をどうしていくのか、そういった部分を次回の部会で議論をしていって、取りまとめに向けてやっていきたいと、まず最初の目標みたいな、そういうようなイメージでとらえていただければと思います。（事務局）
- エリアマネジメントとか簡単に言っちゃうけど、例えば東京駅の大丸有とか、札幌駅みたいな、すごく人がいるけれど、あるいは公園で言うと南池袋とか都市的な施設ですよ、というのの先行事例というのは出ていると思うんですけども、こういう江津湖に合致するようなちょっと郊外で周り住宅地とか、そういうのでいい事例とかあるんですかね？何か知っています？（星野部会長）
- いまいち私もピンとくるものはなくて、いわゆる商業というよりは市民に対する満足感みたいな方がメインになってくるのかなとは思いますが。どちらにしても先ほどからお話しているところの誰がやっていくかというのを決める何かというのが常にないといけないと思うし、営業をかけていくという会社が必要だと思えますよ。民間にそれをやってくれと言うと、一体いくら払えばいいんだろうというところがあるので、だから大学生にお願いするというわけではないですけども、柔軟な発想を持ってできると思うし、まちのことを考えるということ、地元の人達がやるというのはストーリーとしていいし、会社というふうな感じでやっていくという経験値的にもいいと思いますし、プレイヤーを常に立てていかないといけないと思うので、そこを決めていくことは重要なんじゃないのかなとは思っています。この「魅力と質の向上」「適切な公園経営・資産運用」「運営手法と担い手づくり」というのはもちろん分かるし、そうなんでしょけれども、それを誰にやってもらうのというのを決めるための、先ほど言ったように、これがずっと続くんならばそれでいいと思いますし、資料を貯めて、やりませんかこの協議会がやっていけばいいし、皆さん本業がある中で、学生はもちろん学業が本業でしょうけれど、という中で、そこをここで決めていかないとこの構想自体が空中分解してしまうんじゃないかと。一番最初に言ったみたいに、細かい江津湖に関する事というのは、今後も担当している行政の方がやっていくし、それは割りと簡単に見えやすい部分だと思うんですね。アプローチやっぱりしづらいところというのをこの機会に解決しておかないと結局１０年後にも同じ名前で協議会が立ち上がるじゃないですけど、そういうことになりそうな気はしています。（若松委員）
- おっしゃるとおり、誰がというところが、あるいは誰がを決めるための誰がというのかもしれない

ないんですけど、そこは大事です。(星野部会長)

- これだけの規模は一般の会社ではできないでしょう。(松本委員)
- PFI とかも全体というよりは部分的な考え方もありますよね。(若松委員)
- 一部だったら何とかいいんですけども、これ全体で考えた時にはできないですよ。(松本委員)
- それはたぶんそうだと思いますね。行政が「頑張っ」てに最後になってしまうと、おそらく続かないというところもあるでしょうから、役割分担というとなんかドライな感じもするし、協働のあり方というようなことかなと思います。何より誰がというのはおそらくこの取組み自体がちゃんと30年続くための工夫がちゃんと盛り込まれているかということですよ。課長が変わったら終わっちゃうようなそれじゃまずいですよね。だからそういう意味では基本的考え方とか、あるいはどっか全体でもいいですけど、この仕組み自体が持続するというのをどっかにしっかりとあるといいですね。目標ですよ。(星野部会長)
- 発想的な部分が皆さんとは違うかもしれませんが、マーケティング的な価値づくりをある程度しっかりしていきましようというように聞こえているんですけど、そうするとやっぱり、マーケティングの基礎になるところは、ここで言うと江津湖ということのブランド化だと思うんですよ。ブランドづくりということ。江津湖というと何がブランドかということ私は“水”だと思うんですね。熊本のブランドが“水”だと言うんだったら、その代表格が江津湖であり、あるいは、例えば白川水源であるというような位置づけというのは県や市がしっかりと担保するという何かが必要かなと思います。今、南阿蘇村で我々と一緒にやっているのは、「水の生まれる郷」ということをもう一回きちんと言いましようということで、水源の整備だとか、色々な情報発信の整備をしているところなんですけれども、江津湖も多少それに似ているところがあって、例えば、江津湖に看板があるんですね、涵養だとか、ああいう話なんかをもう少しきちんと伝えるようにするとか、“水”という部分から考えたときに江津湖が果たす役割というものがあると思うので、そういった意味でブランドづくりに関係するものにしていくということで考えると、魅力とか質だとか、イベントの話というのもブランドを高めるものにしてほしいと考えます。いろいろな整備をする中でいくと、ブランドですから、「モノ」だけではなくて、「コト」づくりの話だとか、それに取り組む「人」の話だとか、というのが入ってくるわけで、そこにマーケティングとしての要素が一つ一つ並んでくるんだと思うんですが、何かそんな感じを考えています。(古賀委員)
- もう少し江津湖の価値みたいなものをもっとクリアにですね。(星野部会長)
- “水”だけではないかもしれませんが、熊本県、熊本市と言ったら“水”と言っているわりには、熊本の水ならではの価値についてあんまり発信していないなと感じていて、非常にもったいないと思っています。(古賀委員)

●昔みたいに泳げる江津湖に戻ればまた話が変わるんですけどね。少なからず体感できるとかですね。昔は泳げたので、全然話が変わってきたんですけども。(松本委員)

●環境の問題とかもやっぱり少し良くしていくということは当然必要なんですが、常に泳げなくても泳げるように努力するとか、体で感じるというのはすごく大事だと思うんですよ。水に関するものを体験できるところがあるということですよ。そういう施設みたいなのが必要かなと思います。東北で津波があり全部失われたところで、水産業を体験できるところを廃校の跡につくった「モリウミアス」とかそういったところがあるんですけども、ああいうところというのは、津波で全く何もかもが失われてしまったんですけども、そこに今ある資源を使って、廃校を活用して今は観光にも繋がっているという、何かそういった視点でできることがあるんじゃないかと思います。(古賀委員)

●江津湖の価値が“水”だということは共有できていると思います。例えば資料7とかでも、課題に利活用が一番最初に来るんじゃないくて、こういうのは普通の公園っぽいなと思って、やっぱり常にまず環境保全、環境部会を見ると、保全というちょっと守りの活動だけじゃもう駄目じゃない、再生だとか、それが常に一番あって、人の活動はその恩恵なりなんなりがっていうような、しつこいくらいそういう構造をまず私達がつくるということはすごく大事だなと思います。先ほどのようなもっと県レベルとかという、環境部会にも書いてますけれども、県レベル、熊本全体での江津湖の価値というのがもっとクリアに言えると、先ほどから言っている民間と行政との役割分担とかという中で、端的に言うと税金どれくらい入れていいかという話にも繋がると思うんですね。一公園なのか、熊本の、ある種は水道とかも含めたすごく大きなものを担っているんだという、そこら辺も協議会も含めて議論していくし、たぶんアクティビティ・マネジメント部会というのは、その価値をどうやったら皆に分かりやすく伝わるかと、例えば泳げるかとか、市民とかにどうブリッジできるか、伝えていけるかみたいなものが私達の課題になるのかなと思いました。

まだ資料8が残っていますが、他何かこれ言っておきたいとかありますか？

まだ説明が1個ありますので、その間で思いつかれたらまたご意見いただけたらなと思うので、資料8、残りを説明いただいていいですか。(星野部会長)

～議題(4)「今後のスケジュールについて」説明後～

●何かご意見ありますか。

この緑化フェア以降がほんとの時間というか、次がどう繋がるか、だから私の理解で言うと、まず今年度しっかり議論して計画を立てましょうと。2022年の緑化フェアまでの3年間くらいがある種の試行期間というか、試行錯誤を実際運用しながらする期間。そして緑化フェア後は、ある種ムービー的に動いていく期間というようなイメージでいいですか。ぜひそうなるように皆さんの知恵を借りたいなと思います。(星野部会長)

- 江津湖の協議会ですけれども、政令市になって平成24年から、この前段の協議会というのはずっとやってきているんですね。この利活用・保全計画を立てるために、新しくもう一回色々な方へ参画をいただいて、改めて今計画を立てているという形で、やはりずっとこの公園を魅力あるということで、ずっとこの先も後世に伝えていく、また色々な法であったりとかが変わっていきますから、そういうのも途中、途中で見直していくということで、ずっとこの公園を協議会が見守っていただきたいというふうに思っているところです。（事務局）
  
- 他に何かありますか？また何かありましたら事務局等へご連絡いただければと思いますので、よろしくお願い致します。今日は以上で終わりにしたいと思います。（星野部会長）

以上